

業種別「発生抑制の目標値」の策定（案）に関するヒアリング資料

平成 23 年 11 月 18 日
日本チェーンストア協会

．発生抑制についての基本的な考え方と業界としての取組

1．業種業態の違いによる食品廃棄物等の発生に与える影響

店舗で発生する食品廃棄物等の多くは野菜くずであり、その発生時間帯は、売場を整えるオープン前から午前中に集中される。また、惣菜・鮮魚分野については、発注精度の向上をさせていることや完売とする為の手法がある構築されてきており、従来から比較すると発生する食品廃棄物等は極めて少なくなっている。

2．業界毎の食品廃棄物等の発生量の把握方法の事例

- (1) 自社にて各店舗に設置している計量機にて廃棄物の計量を実施している。
- (2) 自社で一部を計量して推定値を出している
(具体的な算出方法)
 - ・店舗において重量を測定、記録保存し、収集事業者へデータの集計を依頼している。
 - ・年 4 回の定期計量から、推計値を算出している。
 - ・主要店舗にて全量の計量を実施し、他の店舗では年 2 回 1 週間の計量を実施し、全量計量している店舗データと年間の比率と比較し、指数を設定し、年間排出量を推計している。
- (3) 自社で計量していない
(具体的な算出方法)
 - ・収集事業者にて全て委託し計量している。
 - ・魚類廃棄物は回収事業者の計量により算出しているが、他の廃棄物は 1 日の平均を計量し算出している。食用廃油は、回収量及び一部分仕入れ量と 1 週間の排出量を元に推測している。

3．業界毎の発生抑制の取組と特徴

- ・夜間売り切りのための段階値引を実施し、インスタでの製造計画も通常、週末で調整している。
- ・発注精度向上（発注ミーティングの実施）、夕刻の商品売り切り、時間帯別製造計画の精度向上、店内加工を減らし、アウトパック比率を上げ廃棄の削減を図っている。
- ・計量器の導入により、従業員の意識向上を図っている。

- ・商品の発注数量の適正化、販売時における適正な価格設定による売れ残りの削減を図っている。
- ・曜日、前年売上、特売、地域催事、天候等を考慮した客数・売上予測の精度向上による販売量の予測精度の向上を図り、販売状況に応じた加工を行うことにより、廃棄商品の削減を行っている

・発生抑制の目標値の設定方法に関する意見・要望

1. 定期報告の報告内容の変更について

- ・発生抑制の実施量については、売上から原単位を算出し計算していることから実際に抑制しているという実感が無い。まずは、実質の廃棄物発生量及びリサイクル量の報告から始め、意識の向上を図るべきではないか。
- ・小売業においては、新規出店が増加した場合には結果として発生抑制が難しい現状からすると、発生抑制の目標値の設定は困難である。
- ・毎年均等の改善率を目標とするのではなく、3~5年の期間における改善率の設定についても検討いただきたい。

2. 業種の考え方（業種の区分をどのように考えるか）

正確な廃棄物発生量及びリサイクル量を把握し、小分類により明らかにすべきではないか。

3. 業界自主基準の策定の可能性について

小売業は、店舗の立地、構造、規模によりその営業が大幅に異なること、また、生活者のニーズに合わせた商品の提供のありようにおいても異なります。したがって、自主基準による一律の目標値を設けることは実態との乖離が生じることから、まずは実態に即した対応が可能となるよう事業者毎の努力目標とすべきである。

・その他、発生抑制の目標値の設定にあたり、業界として関係者（行政、消費者、再生利用等事業者）への意見・要望等

行政による積極的な協力によって食品リサイクルが推進している地域、各地域の廃棄物業者の協力の程度によりリサイクルの推進が大きく異なることから、関係者の積極的な協力が重要であり、そうした仕組みの構築が重要ではないか。

企業の統合、分割等により店舗数に変更が発生する場合、目標管理が困難なケースが相見されることから、大きな変更があった場合の目標値のあり方について検討いただきたい。

以上